

2022年7月

第142

ぱれっと



㈱北日本ベストサポート

TEL 018-883-1888

## 「世界的インフレの動向」

世界的に物価高が続いている。日米欧30カ国の4月の生活費は年間で9.5%上昇した。上昇のスピードは新型コロナウイルス禍以前の7倍にも達していると言われている。

米国の消費者物価指数の上昇率は5月に8.6%と40年5か月ぶりの水準に達した。米国では物価上昇にも関わらず購買意欲が旺盛で中古車価格も5月には前年比10%、2年前に比べて60%も上昇し、旅行ではマイアミの客室価格が新型コロナ禍前を58%も上回った。

日米欧など30カ国の「生活費」物価指数も1年前からの上昇率が9.5%と2桁に迫り、5年間平均1.3%の7倍にもなっている。

これは、生活に欠かせないモノやサービスなどが値上がりしているためで、その原因となっているのが、ロシアとウクライナの戦争とコロナによる影響が大きく作用している。

ロシアの侵略戦争のためにウクライナ・ロシアからの小麦の輸出が止まったままになっており、アフリカや中近東では食糧危機に陥っている。更に、経済制裁のためにEUがロシアからの石油や天然ガスなどのエネルギー購入を手控えているため、エネルギー価格が高騰している。さらに、中国ではコロナ対策のため、上海市を長期間に亘って都市閉鎖したため、世界最大のコンテナ港では一時約120隻もの待機船舶が停泊したままとなり、部材などの調達が国難になった。

我が国では、資源が乏しくエネルギーや食料品など海外に依存する割合が高いため、世界のインフレはそのまま日本にも跳ね返る形となっているが、更に、米国のFRBがインフレ抑制のため大幅な金利引き上げを行ったほか、今後1年間で2兆ドルのマネーを市場から吸い上げる政策を打ち出したこともあり、日本との金利格差が拡大し円が急速に円安方向に進み24年ぶりに136円台になるなど通貨の面や株価にも影響が出ており、株価の下落とともにビットコインなど暗号資産(仮想通貨)の時価総額も7割が失われ、今後の景気動向にも目を離せない状況となっている。

世界経済において不安定の度合いが拡大する中、私たちも生活防衛のため、経済の動向や金融リテラシーにもこれまで以上に關心を持たなければならない時代に入ったのかもしれない。金融商品や通貨分散など資産保有のあり方、老後の生活資金の確保など、様々な情報に関心を持ち安定した生活確保のための知恵が求められている。

世界経済の安定のためにも人道の面からも、ロシア・ウクライナ戦争の一日も早い終結を願っている。



## 「人間圧」がリーダーの条件

元慶應義塾大学 名誉教授 村田 昭治

### 「捨身」は死語になった!?

企業にはエリートといわれる優秀な人がたくさん働いている。ただ彼らは揺さぶられていない。そのために、これでいいんだと小さな満足で終始し、人並みを大事にして自分の生活ができればいいという考え方を持っている人が案外いるようだ。それでいいのだろうか。

務めへの抱負と情熱のある人を育てることも、企業リーダーの重要な仕事ではないだろうか。それには、品質力、ブランド力、機動力、ネットワーク力、現場力を最大に活かすことによって、感動が揺さぶりにつながっていくことは何でもやってみようという決然たる行動こそ、必要なのではないか。

このごろ会社を訪ねると、議論でテンションが高まっていかず、ボルテージが上がらないという話をしばしば耳にする。沸騰するまで議論し前進するときに、悩みが湧き、問題が深まって力が生まれるという考え方を共有することが、大事なのだ。

そのためには、全員が「顧客から、あの会社はいつもプロフェッショナルなアティチュード(態度)を示す、まさにバリュー クリエーター(価値創造者)であり、顧客を揺さぶるテーマ、提案をしてくれる人が多いという評判をもらうように努力しよう」と、声を掛け合うことだ。

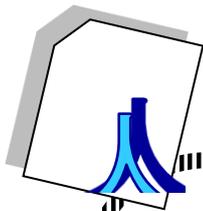
いま、「捨身」という言葉が死んでいる。捨身とは真面目で、仕事がおもしろくて、諦めない、必死で思う存分やり抜こう、のめり込み埋没していこうということだ。

そのなかで発見があり、その取り組みのなかで大きく自分を揺さぶることができて、はじめて人は高度の基本価値を獲得することができるのではないだろうか。

そこから創りだされるオーセンティックな提案力、対話力、選択力を持ち、ビジョンに輝く人間がどんどん出てほしい。

のろさをゆとりとはき違えてはいけない。日本の企業は、まさに正念場を迎えているのだ。

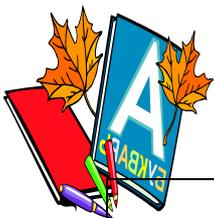
【「人を惹きつける経営」より】



## 幸田 露伴 (日本の小説家)

- 1867年8月22日(慶応3年) 武蔵国江戸下谷三枚橋横町(現台東区)に幕臣の(父)利三、(母)猷ゆうの四男として生まれる。幼名は鉄四郎。
- 1875年(明治8年) 東京師範付属小学校入学。草双紙など愛読。
- 1878年(明治11年) 東京府第一中学正則科入学。尾崎紅葉・上田萬年・狩野亨吉らと同級生。菊地松軒の迎義塾で漢学・漢詩を学んだ。
- 1883年(明治16年) 逓信省官立電信修技学校入学、卒業後電信技師として北海道余市市に赴任。
- 1887年(明治20年) 職を放棄し帰京。露伴の号を得る。
- 1889年(明治22年) 「露団々」を起草、「都の花」に発表。山田美妙の激賞を受けた。
- 1892年(明治25年) 「五重塔」を発表、作家の地位を確立する。その後、「新羽衣物語」「椀久物語」当時画期的な「一国の首都」「水の東京」など発表。理想主義の幸田露伴・写実主義の尾崎紅葉とともに「紅露時代」と呼ばれる黄金時代を迎える。
- 1908年(明治41年) 京都帝国大学国文学の講師となる。
- 1937年(昭和12年) 第1回文化勲章授与され、帝国芸術院会員となる。
- 1947年7月30日 肺炎と狭心症を併発し死去。享年79歳。

## オススメの BOOK



### 「おだやかに シンプルに 生きる」

作者 柊野 俊明 出版社 PHP 文庫

著者は曹洞宗徳雄山建功寺住職。庭園デザイナー、多摩美術大学環境デザイン科教授。禅思想とデザイナーとして国内外から高い評価を受け芸術選奨文部大臣新人賞などのほか外国からも賞を受賞している。

本書は、「シンプルに生きるための方法」「ひとつきあいの心得」「仕事との向き合い方」「自分を高める智慧」の4部作で構成されているが、すべて禅の言葉の解説集である。一般的に俺が俺がという考えより自分の至らなさを見つめ正していく生き方を説いている。

## 「備えあれば憂いなし」バイクの保険！



男女ともに趣味として人気の「バイク」。バイクが趣味の人は、ツーリングだけが好きというわけではなく、カスタマイズや新しい人間関係作りにも魅力を感じているようです。

バイクはシートベルトもなく、運転者の体が車外に出ているので、万が一事故が起こればダイレクトに衝撃を受けることになり、重大事故に繋がる可能性も高い乗り物です。バイク事故による損害はどの保険でカバーされるのでしょうか？

原則全ての自動車(二輪自動車や原動機付自転車含む)は、自動車損害賠償責任保険(自賠責保険)への加入が義務づけられています。自賠責保険は事故相手の死傷に対する対人賠償のみで自分自身の損害は全く補償されません。

そこで必要になるのが自動車同様「任意の自動車保険」です。任意保険は対人賠償だけでなく自分自身の身体や車両への損害など幅広く補償してもらうことが可能です。保険料は等級制度によって割引率が異なるため、新規で加入した直後は高くなります。

バイクは冬季間になると全く乗らない方も多く1年分の保険料を払うのはもったいないと思う人もいるのではないのでしょうか。

中にはバイクに乗る期間だけ保険に加入する方もいるかもしれません。等級は保険を利用することなく1年間経過すると1つ進み割引率が上がります。つまり加入期間が1年未満だといつまでたっても等級が進みません。この問題を解消するため、保険会社によって条件は異なりますが、バイクに乗らない期間は補償内容を下げて1年契約で加入することで保険料を抑えつつ等級を進めることができるのです。

また、125CC以下のミニバイクであれば、自動車保険に付帯できる「ファミリーバイク特約」があります。割安な追加保険料で代用できます。メリットとして、ひとつの特約で、ミニバイク何台でも補償になる。同居の親族・別居の未婚の子も対象になる。自動車保険契約の年齢制限に影響されない(35歳未満不担保でも16歳の高校生が原付バイクを運転できる)。保険を使っても等級に影響がない等々があります。

ただ、ロードサービスが使えないので遠出やツーリングに出かける際は注意が必要です。(各保険会社に共通なものではありませんので詳細については契約中の保険会社にご確認下さい)

車とは違い、風や匂いや季節を体で感じることもできるのもバイクの魅力の1つですね。

### 【編集後記】

先日、石川県で震度6の強い地震が観測された。幸い津波もなく大規模災害には至らなかったが、最近小規模の地震が頻発しており不気味な感じがする。

東北地方も入梅に入ったとの報道がされているが、最近の雨はしとしとと降る雨ばかりでなく時にはゲリラ豪雨と言われる集中的に局地を襲う危険を伴う雨のニュースも多くなってきた。「災害は忘れた頃にやってくる」と言われているが、「備えあれば憂いなし」とも言われ油断なく災害の備えを万全にしておきたい。